氷って冷たいね
若葉台保育園（福島県いわき市）　0歳児

＜事例１＞　氷や水に触れ、その感触を楽しむ （８月）　　０歳児　１１名

子どもの様子	保育者の指導・支援内容
	①用意した氷と水を子どもたちの前に置く。
②保育者が用意した氷と水に興味を示し、じっと見ている。	
③保育者と一緒に氷に触ったり保育者の話を聞いたりしている。 ３名→全く抵抗なく、水や氷に触れることができる。 氷に手を伸ばし、口に入れてなめる。冷たい感触が気持ち良いのか、ニコニコしている A児→水には抵抗なく触れる。氷は周りの様子を伺いながら、少しずつ手を伸ばす。 B児→自ら氷に手を伸ばし、「あーあー」とその感触を保育者に伝えようとする。	③「冷たいね」「気持ちいいね。」とその感触を、子どもと一緒に楽しむ。
④２名→水には触れることができるが、氷は見ているだけ。 目の前に氷を差し出すと、最初は恐怖心があるのか、いやいやと首を振っている。	④氷に触れられない子には無理をさせず、まず保育者が触って見せる。
⑤保育者が自分に声をかけてかかわりながら、氷に触るのを見ると、指でちょんちょんとつつき、最後には自分で氷を握るようになる。	⑤氷に触れる不安を取り除いていけるような言葉かけを行う。

（考察）

初めて氷に触れる子も多く、保育者の用意した氷をじっと見つめ、興味を示していた。すぐに手を伸ばす子、なかなか触れない子など反応は様々だったが、保育者が目の前で触って見せたり、友達が触っているのを確認すると、安心するようで遊び始める子が多かった。月齢の低いC児、D児は警戒心はなく、目の前にあるものに興味を示し手を伸ばす。手で感じた感触を何度も繰り返し確かめることで、子どもは氷というものを認識できた。実際に触れるということは、子どもの感覚を刺激し、豊かな表情や発語を引き出してくれる。「冷たい」「ツルツル」など手のひらで感じる感触は、０歳児にとって刺激的であり、五感をフルに使って取り組むことのできる楽しい活動となった。

＜事例２＞　自然の氷の冷たさを実際に触れ感じる（１２月下旬）　　０歳児　１０名

子どもの様子	保育者の指導・支援内容
	①「お外に行こう！」「今日は、お外で氷探そうね」と子どもたちに話をする。
②「お外に行こう！」と保育者に声をかけられ、嬉しそうに集まる。「氷」といわれてもよく分からないという表情を見せるが、園庭に出ることには意欲的である。	
③外へ出ると、自由に遊び始めるが、氷には気付かず、それぞれ自由に遊んでいる。	
④「何だろう？」と保育者の言葉かけに反応し、集まってくる。保育者が指差した場所を覗き込む子、氷に触りたいと手を伸ばす子がいる。	④「氷があったよ！」と園庭の遊具の中にできていた氷を指差す。
⑤興味を持ち、身を乗り出してみているが触れようとしない子（２名)がいる。	⑤「ほら、これが氷だよ」と保育者が手に取り、子どもたちに見せる。
⑥保育者の手の中にある氷を不思議そうに覗き込む。 氷に触れ、その感触を楽しんでいる。（２名） 氷に触れ、濡れた手をじっと見ている。（１名） 氷の表面をなでて、その感触を楽しんでいる。（２名） 保育者が差し出すと、氷に触れることができる。（１名）	⑥「冷たい！」「ツルツルだね」とその感触を言葉で伝えながら、子どもたちと一緒に楽しむ。

© 2006Sony Foundation for Education, All Rights Reserved.

（考察）

＜氷って冷たいね！！＞

自然にできた氷を見るのは初めてだった子どもたち。以前（８月)に、保育者が作った氷には触れたことがあったがそれとは全く異なる氷であり、最初に遊具の中に氷を見つけた時に、子どもたちはそれが何であるのか認識できていなかった。興味を持って手を伸ばす子（２人）もいたが、そうでない子（８人）も多かった。しかし、手を伸ばさない子が氷に興味・関心がないというわけではなく、身を乗り出して覗き込んだり、保育者が氷に触れる様子やその時の表情などをじっと見たりしていた。

保育者自身が楽しんで氷に触れている様子を子どもたちに見せると、自然に子どもたちの手が氷へと伸びた。「冷たい」「ツルツルしている」など、手のひらや指先で感じる氷の感触を、子どもたちは十分に楽しむことができた。

０歳児にとっては、季節ごとに自然の中で出会うものひとつひとつが新鮮で、好奇心を刺激する一方、初めて見たり触れたりするものへの不安や警戒心が成長とともに出てくる。それを保育者ができるだけ取り除き、自然とふれあう楽しさや喜びをともに感じていけるよう保育をしていくことが特に大切となってくるのではないだろうか。

みどころ

安心して氷や水に触れることができる８月に、「水や氷に触れる」活動をしたことで、一人ひとりのかかわりの様子を見守りながら、「氷」に触れるまでの過程や触れて感じたことを表現する様子を見取ることができます。安定した中での保育者の言葉かけやゆったりとした保育者とのかかわりの大切さがわかります。

また、8 月の反応やかかわりが、12 月の自然の中での「氷の体験」の時の予想される動きとなったり、成長を把握する機会になったりしています。いずれの時期も、0 歳児なりに一人ひとりが自分なりのかかわり方や感覚を楽しんでいる様子が伝わってきます。

© 2006Sony Foundation for Education, All Rights Reserved.